

講義名	金融論（経済学部）			授業形態	
担当教員	羽森 直子	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

この授業では、金融論の入門レベルの講義を行い、経済学部の学生が最低限身につけるべき知見の習得を目的とする。経済活動においては財・サービスの取引と並んでお金の流れやお金の取引（金融）が重要な役割を果たしている。金融に関する知識は社会生活において不可欠だが、大学生は社会人としての経験に乏しいのでピンと来ない部分も多くあるかもしれない。授業では我々の生活に身近な金融商品の特徴から始め、金融システムの役割、金融システムやマクロ経済を安定化させるための政策などについて解説・検討し、金融活動を通じた経済の仕組みを学ぶ。各受講生が興味を持てるように、企業金融に関するトピックスについても採り上げる予定である。

到達目標

- (1) わが国の金融システムや企業金融についての基本的な仕組みと機能を学修し、現代社会における金融の意義と公共性について考察できる。
- (2) 金融に関する新聞記事やテレビニュースを理解して、経済社会に与える影響を考察して説明できるようにする。
- (3) ダイナミックに変化する現実の経済を金融の側面から観察して自分なりの見解を持ち、将来の経済の動きに対して展望を持った課題の解決策を提案できるようにする。

提出課題

中間レポート課題
 随時、宿題も提出していただく。
 詳細は、授業中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

随時実施する宿題については、提出後、授業で解説・講評を行う。
 中間レポート課題については、提出前に採点に関する注意事項を説明する。また、中間レポート提出後には全体的な講評を行う予定。

評価の基準

中間レポート（約30%）
 期末筆記試験（約70%）

履修にあたっての注意・助言他

この授業は「金融資産の運用」（株式投資など）を解説するものではない。そう考えている学生には期待外れの退屈な授業となるだろうから、履修はお勧めできない。
 この授業科目をより深く理解するためには、「経済学入門」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。また、より発展的に金融を学びたい学生には「金融政策論」や「国際金融論」の履修を推奨することをお勧めする。

ノートと筆記用具を準備して、必ずメモを取っていただきたい。
 対面授業中の私語・携帯操作その他態度不良の場合、教員は注意をする。何度も注意された学生は、次のステップとして得点を大幅に減点されることがある。

教科書

.使用しません。

参考図書

.金融論（第3版）.	家森信善	中央経済社	9784502415913
.入門テキスト 金融の基礎（第2版）.	藤木裕	東洋経済新報社	9784492654934

その他

授業中に適時資料を配布する。参考文献は、適時紹介する。

授業計画

- 第1回 授業の進め方、金融論で何を学ぶか
- 第2回 金利について 金利はなぜ存在するのか？
- 第3回 金利について 金利の性質
- 第4回 お金の流れ方 お金の乗り物と通り道
- 第5回 お金の乗り物 負債と資本
- 第6回 お金の乗り物 負債と資本の違い
- 第7回 お金の通り道 中継所のある金融
- 第8回 お金の通り道 市場を通じた金融
- 第9回 金融機関 中継所となる金融機関
- 第10回 金融機関 中継所でない金融機関、中間の性質を持つ金融機関
- 第11回 金融機関 中央銀行の役割
- 第12回 金融のテクニク お金の調達における負債と資本の利用、会社買収
- 第13回 金融のテクニク 証券化
- 第14回 金融のテクニク 倒産企業の立て直し
- 第15回 まとめと総復習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各回の講義ノートと配布資料の内容について復習し、内容を理解しておくこと。（1時間×15回=15時間）
 数回提出を求められる宿題の作成にあたり、調査、まとめを行うこと。（15時間）
 中間レポート、期末筆記試験対策（あるいは期末レポートの作成）にあたっては、自約1か月間にわたり資料や文献を調査し、レポートを作成、あるいは講義ノートや配布資料を復習して試験準備をすること。（30時間）
 （合計60時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標(1)(2)(3)を達成することで、経済学部経済学科ディプロマポリシー（DP）に貢献できる。具体的には、以下のとおりである。
 金融の仕組みを知り、現実の金融問題を理解して見解を持つことは、金融問題を包含する現代社会の諸問題の考察や新たな課題の発見のために必要である。
 金融の仕組みを知り、現実の金融問題を理解して見解を持つことは、世の中の動き全般の理解につながる。経済社会の課題解決につながる分析ができるようになる。
 また、到達目標(1)(2)(3)を達成することで、経済学部経済情報学科ディプロマポリシー（DP）にも貢献できる。つまり、金融の仕組みを知り、現実の金融問題を理解して見解を持つことにより、経済に関する十分な知識を身に付け、経済にまつわる情報を分析し、活用することができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業に関する質問をメールで行う場合、必ず大学から配布されたアドレスから送信すること。